



# ガールスカウト長野県連盟 第17団 団委員長 太田利津子さん (72歳) 〓 古城 〓

太田利津子さんは今年、長年にわたるガールスカウト活動により長野県将来世代応援県民会議会長表彰を受けた。日本のガールスカウト運動は昨年百周年を迎えた。そして今年、小諸にある第17団は発団47周年にあたり、50周年記念行事の計画が始まっている。

ガールスカウトは世界最大の少女と女性のための団体で、活動の重点に①自己開発②様々な人との交流③野外活動

を掲げている。日本には47都道府県すべてに活動の拠点があつて、五歳から百歳を超える女性まで約四万人が参加しているという。

第17団の発団には、当時育成会長だった大塚清人さんが尽力した。近隣のガールスカウトを訪ねて話を聞き活動を記録したフィルムを借りてくることから始め、保護者に説明して団員を集めた。初代団委員長には小山絹さんが就任。以後、戸塚そのさん、小山圭

さん、武知明子さん、和田嘉寿子さん、金子智津子さんが続いた。太田さんは七代目になる。

太田さんは三十六年前に入団した二人の娘とともに、ガールスカウトの活動を開始した。医療事務の仕事もあつて、たびたび二泊三日の研修会に参加するのは大変だったが、家族の協力で乗り切ることができた。その後、家庭に病人を抱えてもお活動をあきらめなかつたのは「何か夢を持つて期待して入団してくる少女たちと共に活動できることは、楽しく嬉しく希望に燃えるから」という。月に二、三回行う集会に来た団員が楽しく歌やゲームをして、時には工芸品作りに挑戦し、キャンプの練習をした帰りぎわに「バイバイ、リーダー！」と元気な挨拶をしてくれると毎回「今日も集会を開いて良かったと思える」と話す。

を配る活動や、ユニセフ募金から動物園のエサ代のための募金に立つことや、ごみゼロ運動への参加があげられる。

太田さんは「戸隠にはガールスカウト日本連盟が所有する広大なキャンプ場があります。ここでのキャンプのため、テントの組み立て方を教えます。水難救助ができて、ブルーシートがあれば小屋が組み立てられる女性に育てます。ガールスカウトで学んだことは必ず非常時に役立ちます。世界組織ですから、海外の催しに派遣することもできます。入団に審査はありません。ユニフォームの貸与をします。成人女性もぜひ、ボランティア活動の選択肢に入れて参加してください」と呼び掛けている。

第17団への問い合わせは、知り合いのガールスカウトまたは活動拠点の小諸市文化センターへ。

近年の活動としては、県の依頼で麻薬撲滅運動のチラシ

(取材・文 佐藤 万千子)

ゆらさんの四季の薬膳

## 人生の秋と木の実

人生の秋って、一体いつから？ 中医学では、女性のからだは28歳から35歳、男性は32歳から40歳にピークを迎えると考えられています。その後は老化に向かいゆるやかな坂を下っていく…と。となると、男女とも40、50代は人生の秋といえそう。

季節の秋もそうですが、秋は収穫のときで、その先の冬への準備期間でもあります。からだがいえば、肺と腎臓の働きが大事になってきます。さて自然界に目を移すと、秋の実は梨や柿、りんごなどの果物、栗や胡桃など木の実は果物は肺を潤しますし、木の実は腎臓を滋養します。自然界も人が必要なものを提供してくれているのですね。

特に栗と胡桃は発育不良や老化の改善をする働きがあるため、人生の秋から冬にかけてぜひとりたいものの代表格。カシューナッツや蓮の実、松の実にも同様の効果があります。今回は肺と果物の関係をお話します。

(国際中薬膳師 小清水由良)

